

特別支援教育 あどばいすタイム

こどもたちが
自分のところとからだを
大切にするために

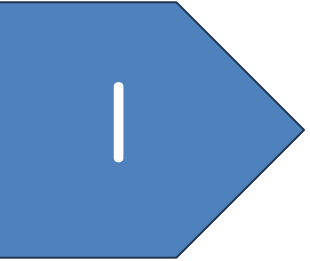
徳島県立みなと高等学園
教頭 逢坂直子

本日の 流れ

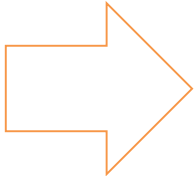
1. 本校の紹介
2. 生徒指導提要から考える
3. みなと版「こころとからだの学習」
4. 実践する上で大切にしたいこと
5. セルフトーク
6. 振り返り

Ⅰ. 本校の紹介

あどばいすタイム



基礎的な環境整備として
すべての生徒にとって
安心・安全な学校づくり



プロアクティブな指導
予防学習に重点を置く

安心安全な環境づくりへのしかけ

- さんづけ呼称
- 丁寧な言葉遣い
- みなと3つの大切
- こころとからだの学習



2. 生徒指導提要 から考える

あどばいすタイム

生徒指導提要の改訂

生徒指導提要

令和4年12月

文部科学省



- 第13章で構成
- 校則改正よりも…
- 「こどもの権利」を改めて明言
- 成長・発達を支える点を重視

あとばいすタイム

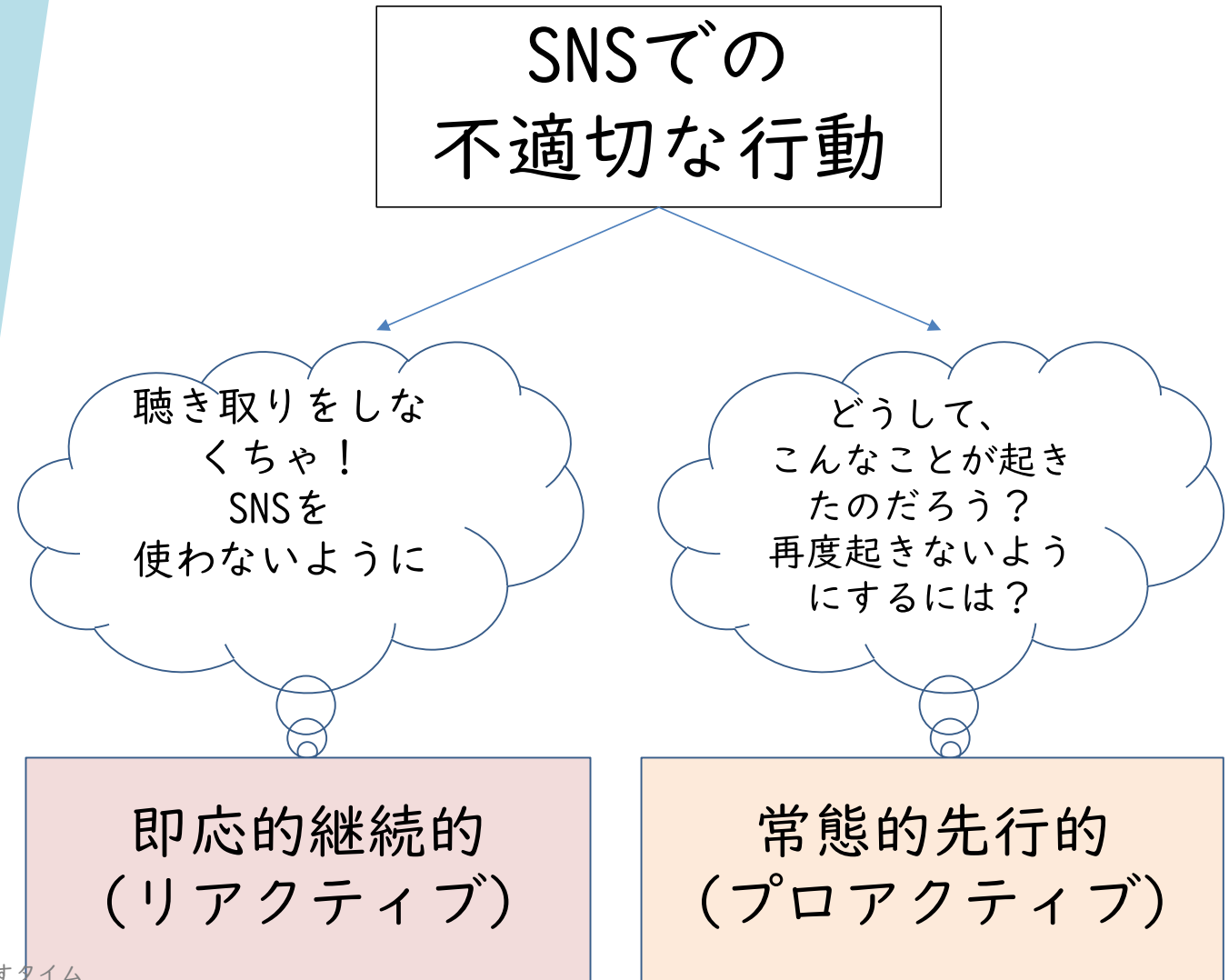
時代の流れと 生徒指導の変化

1. 「こどもを取り囲む環境」が変化
2. 抱える問題が多様化
3. 関わる法の整備
4. 生徒指導の定義を捉えなおす

第1章

生徒指導の基礎

生徒指導の構造



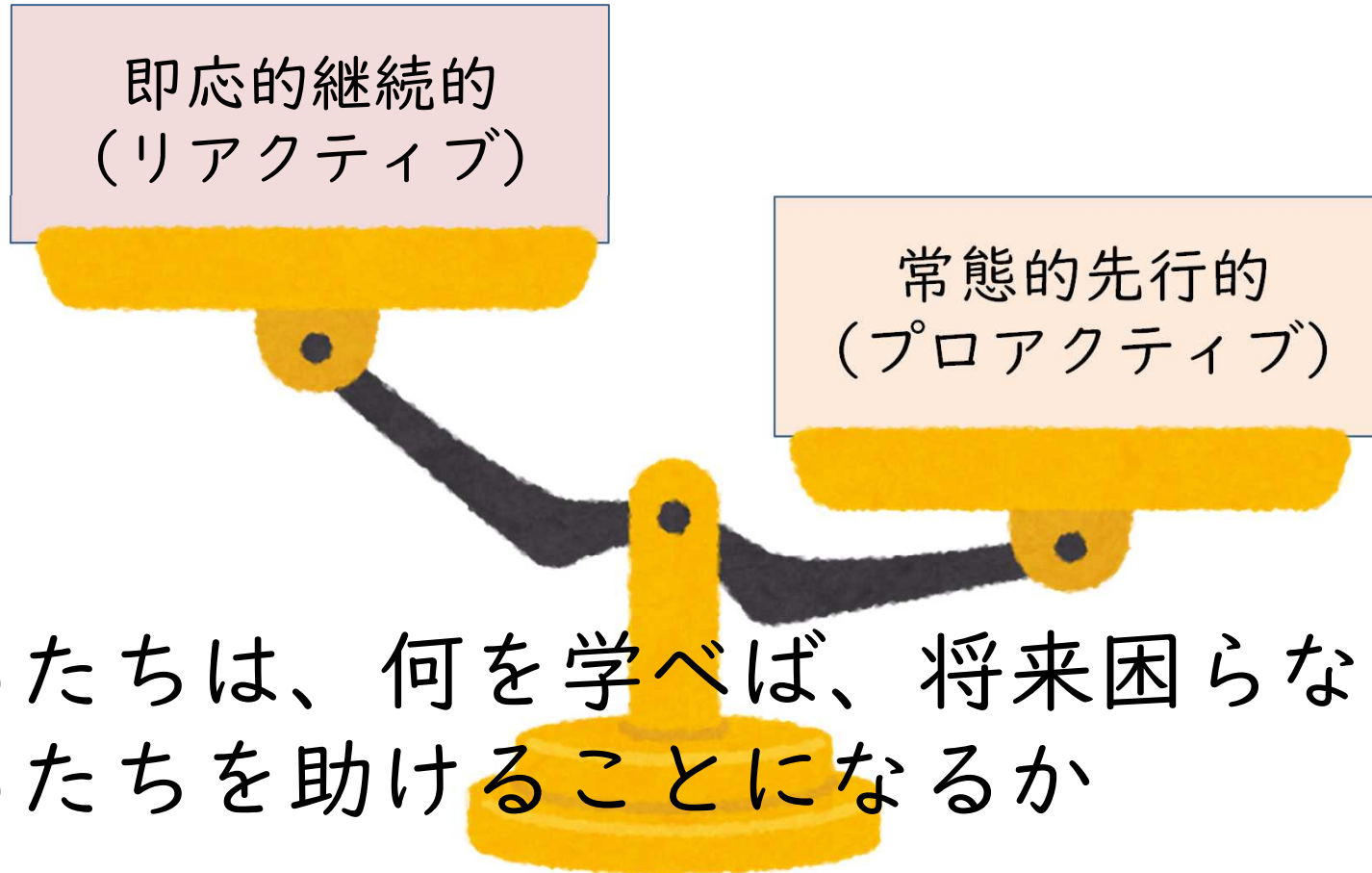
即応的継続的
(リアクティブ)

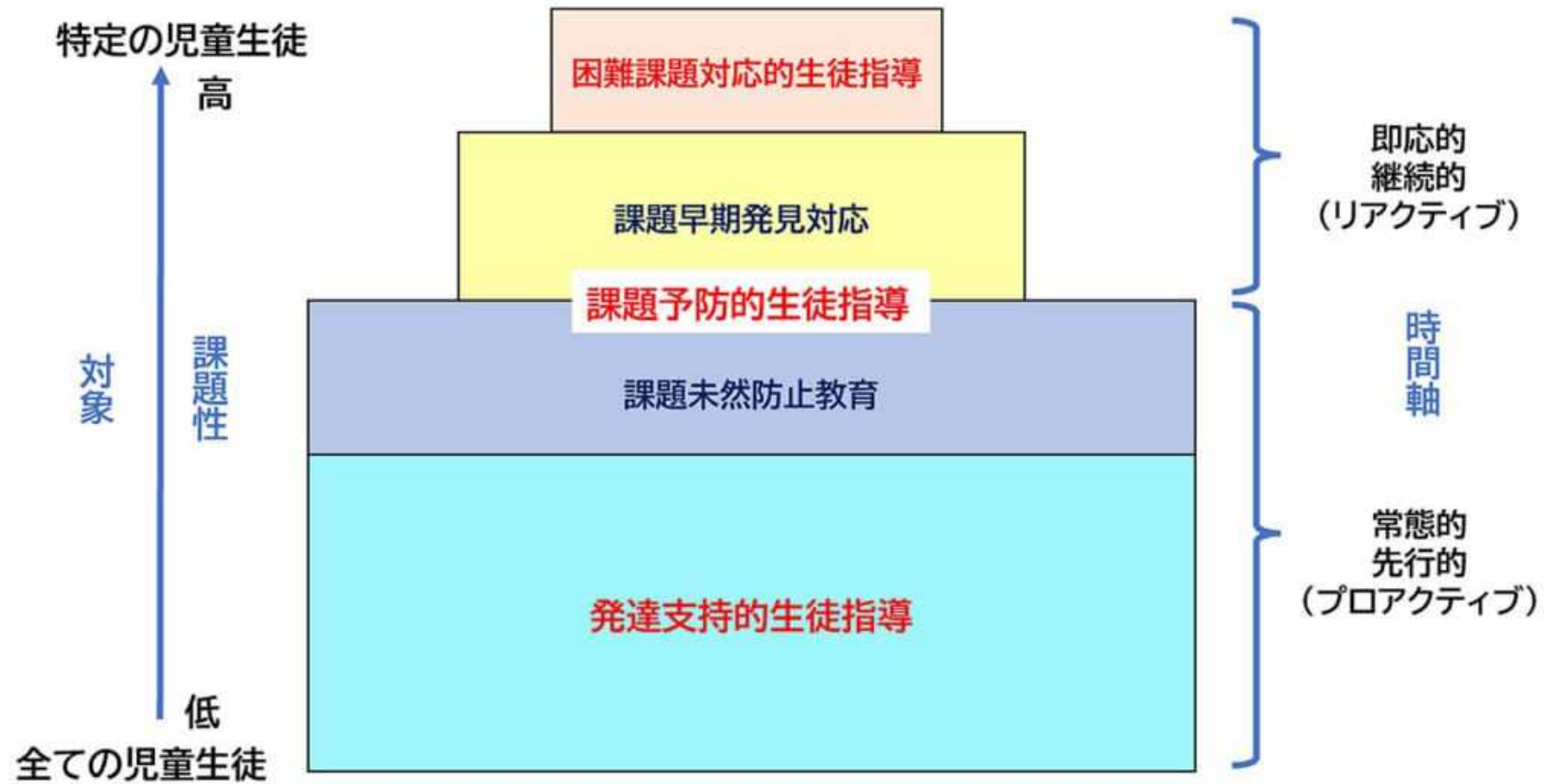
問題が起きてから
すぐに対応する

課題がある生徒に対して
粘り強く取り組ませ
本人に変化を求める

常態的先行的
(プロアクティブ)

どのように
問題が起こりにくい
環境を作るか





キーワード「積極的な生徒指導」「生徒指導と教育相談が一体となったチーム支援」
「生徒指導提要（令和4年12月）」のポイント（基礎編）

学校における生活指導の一層の推進や、自分自身の対応力の向上に向けて、「生徒指導提要」の趣旨や、課題等の改善に向けたポイントについて、共通理解を図りましょう。

生徒指導の構造（2軸3類4層構造）

生徒指導と言うと、課題が起き始めたことを認知したらすぐに対応する（即応的）、あるいは、困難な課題に対して組織的に粘り強く取り組む（継続的）というイメージが今も根強く残っています。しかし、起きてからどう対応するかという以上に、どうすれば起きないようにするのかという点に注力することが大切です。

時間軸に着目すると 2軸
課題性・対応の種類から分類すると 3類



特定の児童生徒
一部の児童生徒
全ての児童生徒

対象



いじめ対応 暴力行為 自殺予防 中途退学対応 不登校対応 性犯罪・性暴力
具体的には・・・アイコンをクリック！

いじめ、不登校、少年非行、児童虐待など特別な指導・援助を必要とする特定の児童生徒を対象に、校内の教職員だけでなく、校外の教育委員会等、警察、病院、児童相談所、NPO等の関係機関との連携・協働による課題対応を行います。

困難課題対応の生徒指導

課題の予兆行動が見られたり、問題行動のリスクが高まったりするなど、気になる一部の児童生徒を対象に、深刻な問題に発展しないように、初期の段階で諸課題を発見し、対応します。

課題予防的の生徒指導：課題早期発見対応

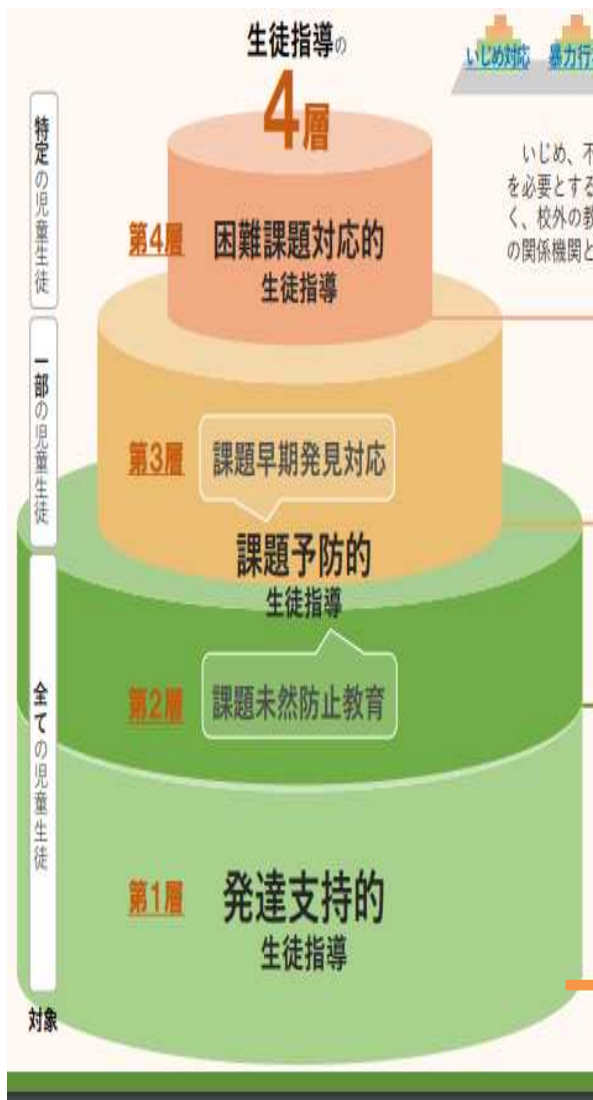
全ての児童生徒を対象に、生徒指導の諸課題の未然防止をねらいとした、意図的・組織的・系統的な教育プログラムを実施します。

課題予防的の生徒指導：課題未然防止教育

特定の課題を意識することなく、全ての児童生徒を対象に、学校教育の目標の実現に向けて、教育課程内外の全ての教育活動において進められる生徒指導の基盤となるものです。

発達支持的生徒指導

あとばいすタイム



発達支持的生徒指導

学校の教育目標の実現に向けて、
教育課程内外の全ての教育活動において
進められる生徒指導の基盤となるもの

すべての児童生徒

基礎的な環境整備として
すべての生徒にとって
安心・安全な学校づくり

みなとの3つの大切

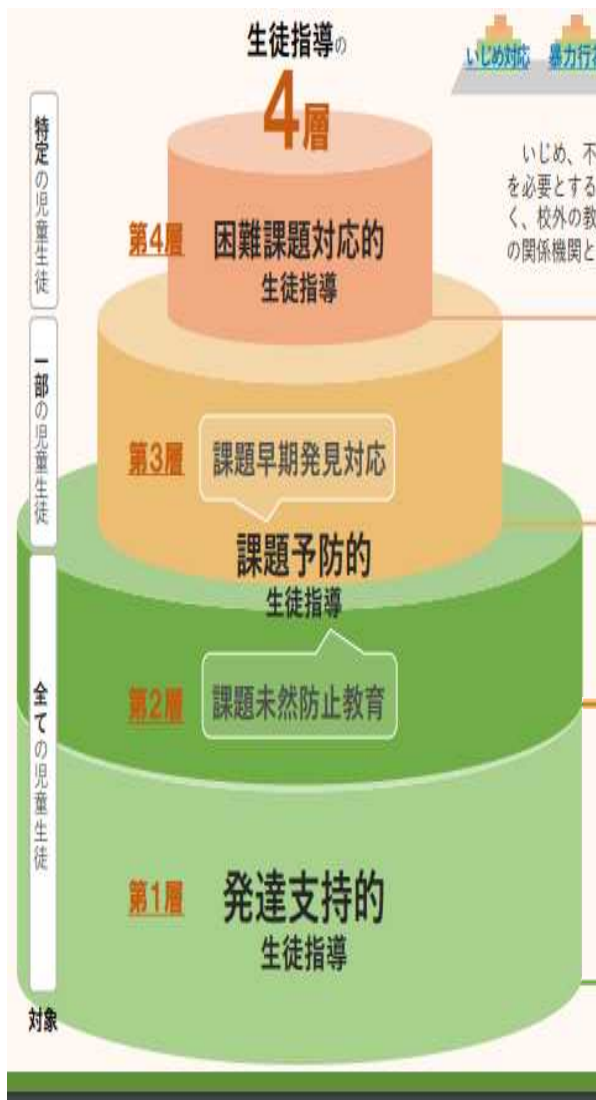
みなとの3つの大切

自分を
大切に

相手を
大切に

ものを
大切に

安心・安全な学校



課題予防的生徒指導

課題未然防止教育

生徒指導の諸課題の未然防止を
ねらいとした、
意図的・組織的・系統的な
教育プログラムの実施

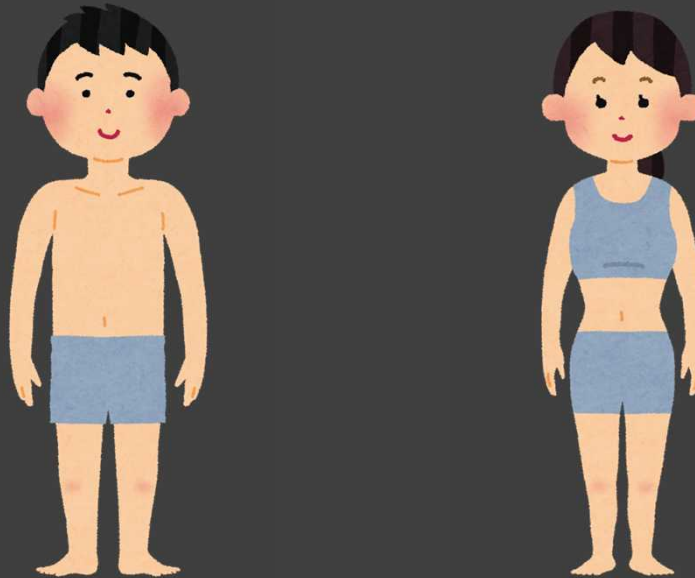
すべての児童生徒



3. みなと版 こころとからだの学習

あどばいすタイム

1, 大切な自分のからだ



大人でも

こどもでも

自分のからだは自分のもの
= **自分を大切にする心**をもつ

関係性・社会性

- 自分と周りの人がどのような法則で成り立っているのか（関係性）
- どのようなスキルを持っていると円滑にコミュニケーションが取れるのか（社会性）

パーソナル スペースとは

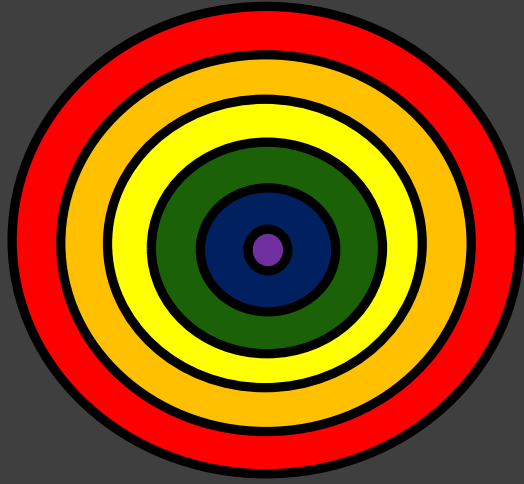
自分と相手が居心地よく
安心して過ごすための、
適切なからの距離

イメージ図

侵入されそうになると・・・

- ・ いや～な感じ
- ・ 不安な気持ち
- ・ 不快な気持ち
- ・ 気持ち悪い感じ etc





2, サークルズって何？

自分と周りの人との
『「**こころ**」と「**からだ**」の**近さ**』
を表す円のこと。

自分が中心にあり（紫）
自分と人との間には色で表される
「**境界線**」があると考えられている。

こころとからだの学習

- 科学的な知識
- 性行動の選択
- 合意形成

3つの観点で計画



4. 実践するうえで大切に したいこと

あどばいすタイム

最初は、教師のつぶやきから

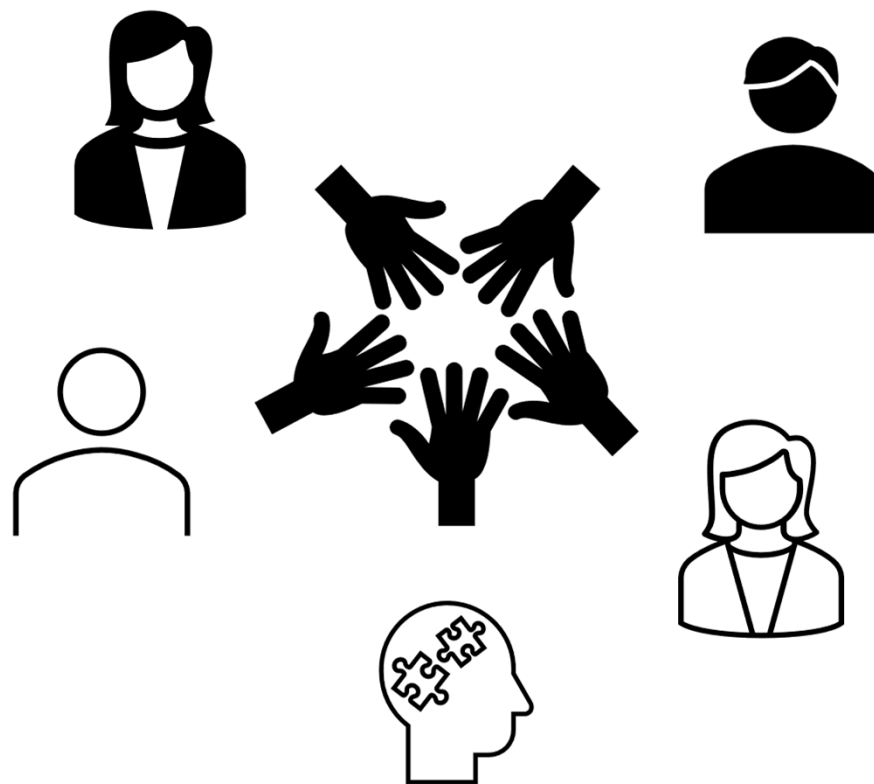
こどもたちに
何かを伝えなきゃいけないのは
わかってるけど
どうしたらいいんだろう？

禁止したり、注意したりするだ
けでは、解決にならないことは
わかってるけど・・・



3

三人寄れば文殊の知恵



1. 目的の設定

3

教員)

- ① まず教員が子どもたちの性的な発達・成長を自然なものを受け止め、一緒に発達・成長を喜ぶ
- ② 教員自身が性に関して学び直す機会と捉え、科学的な知識に基づいた授業を提供する
- ③ 対話的な学習を心がけ、子どもの声を受け止める生徒)

- ① 自分のこころとからだの発達・成長を自然な大切なことと捉えることができる
- ② 自分のセクシャリティを自分で選択して決めることができる
- ③ 自分と同じように他の人のこころとからだを大切にすることができる

2. 目標の設定

3

- ① 自分のところとからだに関する科学的知識を得る
- ② 基本的な知識を生かして、性行動を選択できる
- ③ 相手と話し合いながら合意形成ができる

3. 年間指導計画と 学習内容表の作成

教えたいことはたくさんあるのに…
なにを？
どのように？
どの順番でおしえたらいい？
わからない

①学習内容表の作成

テキストを元に
こどもたちが困っていること
先生が教えたいことを整理

→この作業が大切



①学習内容表の作成

第4段階	自分を知る・パートナーを知る	知識として覚えておいてほしいこと	第2段階	思春期を迎えるための基盤作り	一緒に考えてみよう
小学部～高学部 障害中度～重度		4-1-1 精通の仕組み ☐ 勃起のしくみ ☐ 射精のしくみ 4-1-2 月経の仕組み ☐ 排卵のしくみ ☐ 生理のしくみ ☐ 生理の時の過ごし方（入浴） ☐ バイオリズム ☐ おりもの ☐ 年齢による変化（生理） 4-1-3 赤ちゃんができる ☐ 性交 ☐ おなかの中の赤ちゃん ☐ 産後ばいすタイム ☐ 避妊	小学部・中学年 障害中度	・男女一緒に効果的 ・違いを教える前に共通点を ・自分のからだの主人公は自分 ・正しい知識を ・おとなの「いやらしい」という先入観を捨てる ・生きていくために必要なこと ・食えること、排泄すること＝健康	2-3-1 ①心地よい距離 ・相手の気持ちを確かめることの大切さ ・けんかもときには大切 ・ロールプレイ 2-3-2 いのちのつながり ・胎内で変わっていく赤ちゃん 2-3-3 いのちを育てる ・たくさんの大人に守られて大きくなったこと ・体験記を聴く

②年間指導計画の作成

- 学習時間の確保
- 環境づくりが大切→個別ではなく、集団で実践できる工夫
- 授業の後は、先生方がスモールトーク（10分程度）

大切なのは
大人のマインドセットを変えること

- 教えるから一緒に学ぶへ
- 対話型学習への転換
- 全教員で取り組む



5. セルフトーク

あどばいすタイム



6. 振り返り

あどばいすタイム